

Working Paper Summary

JICA-RI Working Paper No.132

(2016年7月刊行)

Altruism or Exchange? Experimental Evidence on the Motives behind Private Transfers in Sri Lanka

Takeshi Aida and Yasuyuki Sawada

Research Project: [スリランカにおける灌漑インフラの貧困削減効果](#)

■付加価値

私的所得移転のメカニズムが利他性と互惠性のいずれであるかは、経済学における重要な問題であり、多くの研究が行われてきた。これらのメカニズムは、政府による公的所得移転が私的所得移転を締め出すかどうかについて異なる結論を導くため、現実の政策決定においても、両者を区別することは重要である。既存研究では、現実データまたは実験データのいずれか一方を用いた分析が行われてきた。しかし、現実データについては、因果関係を直接分析できないという点が、実験データについては、実験室での結果が現実の問題にどれほど妥当性を持つかという点が問題であった。本研究では、フィールド実験により相手に対する利他性と信頼度を直接計測し、これを現実の家計調査データと組み合わせることにより、新たな分析アプローチを提示した。

■リサーチ・デザイン

日本の円借款により、スリランカ南部のウダ・ワラウェ地域に、1995年から2008年にかけて大規模な灌漑設備が建設された。本研究では、このプロジェクトの効果を計測するために実施された家計調査及び経済実験のデータを使用して分析を行った。この調査対象地域は新規入植地であり、調査以前の社会的関係性が希薄であるという本研究にとって望ましい特徴があった。経済実験では、利他性や信頼度を計測するための代表的な実験である「独裁者ゲームと信頼ゲーム」に加えて、「リスク回避度を計測するための実験」も実施した。これらの実験から得られたデータを組み合わせ、各参加ペアの消費水準の差を、各実験結果や所得の差により説明することができるかどうかを分析した。

■主な結論（政策的含意を含む）

分析の結果、自分よりも所得が低い相手に対する利他性が高く、ペア内部の所得の差が大きいほど、消費の差が縮小することが明らかになった。これは、私的所得移転における利他的動機の重要性を支持し、公的所得移転による私的所得移転の締め出し（crowd out）を示唆するものである。よって、これらの結論を考慮した所得移転政策の設計が望まれる。